

2005年出土の木簡



(上 部)

- | | | |
|---|---------------|--|
| 2 | 調査期間 | 二〇〇四年（平16）一〇月一～二月 |
| 3 | 発掘機関 | 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務室 |
| 4 | 調査担当者 | 山田清朝 |
| 5 | 遺跡の種類 | 集落跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 室町時代前半 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 山野里四ツ日遺跡は、千種川中流域に位置し、千種出
す安室川左岸の完新世段丘面上に立地する。県道姫路
上郡 |

その結果、室町時代前半の柱穴群と旧河道を検出し、旧河道内から木簡一点が出た。旧河道内からは、土した。ほかに多量の備前焼・土師器などの土器類をはじめとして、軒丸瓦などの瓦類、

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

山野里四ツ日遺跡は、千種川中流域に位置し、千種川の支流をなす安室川左岸の完新世段丘面上に立地する。県道姫路上郡線のバイ

バス工事に伴い、八八一²m²を調査した。

(1) 一ノ咲天罣(符籙) 急々如律令
343×41×5 0333

8 木簡の釈文・内容



(山田清朝)

兵庫・山野里四ツ日遺跡

木製品、金属製品が出土している。旧河道は、室町時代後半にはほぼ完全に埋没している。

木簡は、旧河道の最下層から出土した。同じ層のほぼ近接した位

二文字めは「雲」という文字があつたものと考えられ、この瓦は、赤松円心により建武四年（一三三七）に創建された法雲寺の屋根を飾つたものである。よつて、木簡を含む旧河道最下層出土の遺物の